

# JICA中国事務所ニュース

- ☆ 中国事務所ウェブサイト <http://www.jica.go.jp/china/office/index.html>
- ☆ ボランティア活動 <http://j.people.com.cn/99005/index.html>
- ☆ サーチナJICAページ <http://searchina.ne.jp/jica>

2012年11月号



## 目次

### ■ トピックス

- ◎ 「陝西省人材育成事業」が理事長賞を受賞 ……2

### ■ ニュース

- ◎ 農業分野における土壌汚染防止への取組みを紹介 ……3
- ◎ 「感染症学術シンポジウム」を開催 ……3  
～見えない細菌との闘い、院内感染対策のために～
- ◎ 第2回「日中建築物の耐震性に関するワークショップ」 ……4
- ◎ 四川大地震後の“こころの復興”経験を世界精神医学会で発表 ……4  
～関心高まる災害後の“こころのケア”～
- ◎ JICA医療分野帰国研修員同窓会 ……5  
2011年度 第3回国際学術セミナー
- ◎ NHKのテレビ番組で「北京の高齢者の状況」を紹介 ……5

### ■ CHINA COOL

- 北京の公共レンタル自転車 ……5

### ■ 寄稿

- JICA「低炭素化のための環境技術研修」に参加して ……6

### ■ 赴任者紹介

……6

## 独立行政法人国際協力機構 中華人民共和国事務所

北京市朝陽区東三環北路5号 北京発展大廈400号室

郵便番号: 100004

電話: +86-10-6590-9250、FAX: +86-10-6590-9260

➤ ニュースレターに関するお問い合わせは、こちらまで  
編集担当: [shenxiaojing.cn@jica.go.jp](mailto:shenxiaojing.cn@jica.go.jp)  
皆様からのご感想やコメントをお待ちしております。

## 「陝西省人材育成事業」が理事長賞を受賞



本事業で建設された校舎



授業で使われる教育設備



兵馬俑の発掘現場で活躍した  
3D撮影機材



3D復元された兵馬俑の兵士像

10月3日、第8回JICA理事長表彰の表彰式が東京で行われ、事業部門において、円借款「陝西省人材育成事業」が中国案件で初めて受賞しました。同部門では、本事業のほか、インド経済の活性化と環境改善に貢献した「デリー高速輸送システム建設事業」等、事業効果が高く且つ相手国の人材育成や社会発展に尽力した模範的的事业が表彰されました。

### ◆ JICA最大規模の教育セクターに対する協力

～中国中西部の高等教育機関の量・質を強化～

2000年代、中国経済の著しい発展を受け、中国向けの協力の重点対象は、経済インフラ整備から、環境・教育・公衆衛生等にシフトして行きました。JICAは、中国財政部や地方政府及び大学等と協力して、人材育成を通じた、中国内陸部の経済成長の牽引、沿岸部との格差是正、日中の相互理解増進を目的に、2001年度以降、22の省・自治区・直轄市において、約200の大学を対象に「人材育成事業」を実施しました。これはJICAが世界中で行う教育セクターに対する協力の中で最大規模の案件です。

本事業は、円借款により、支援対象大学の校舎等の施設建設、教学・実験設備等の教育設備の整備、訪日研修を行うことで、高等教育の量的・質的改善を図ります。これまで22省・自治区・直轄市において、131の施設、16万台の設備を整備したほか、約4,800名の研修員を日本に派遣しました。

清華大学教育研究院高等教育研究所が行った調査研究（2010年）では、中国の高等教育セクターの発展・改革の時期に実施された本事業が、中西部の高等教育機関の基礎施設改善に多大な役割を果たしたこと、特に地方の大学が教学型から研究型へ転換する重要な時期をサポートしており、研究設備の改善や教師及び研究者の育成に大いに貢献していると評価されています。

### ◆ モデル事業「陝西省人材育成事業」

今回受賞した「陝西省人材育成事業」は、人材育成事業のうち最初に完成した事業であり、後続事業に対して助言を行ってきたモデル的な存在です。陝西省内の16大学の校舎建設や教育設備の整備を行い、事業開始時と比べて2.5倍に増加した約27万人の学生の教育環境の維持・改善に貢献しました。

本事業で整備した設備のうち、例えば西北大学が調達した3D撮影・再生のための機材は、世界遺産「兵馬俑」の発掘・復元作業に利用され、大きな研究成果を挙げています。また本事業による訪日研修が、香川大学と宝鶏文理学院の交流のきっかけとなるなど、日中の大学間交流や研究者間の交流を通じた相互理解を促進しています。

### ◆ 人材育成のプラットフォームを目指す

多くの省では既に完成を迎えている人材育成事業ですが、中国事務所では本事業を通じて培った大学間や研究者間のネットワークを更に拡大・強化していきたいと考えています。例えば、寧夏大学と島根大学は円借款資金により日中国際共同研究所の建設や訪日研修を行いました。両大学は条件不利地域に立地するという共通点に着目し、条件不利地域における開発・発展、環境問題や社会問題について研究活動を行うなど、学術交流を通じた日中地域間交流を続けています。JICAは、類似研究を行う中国各地の大学・研究機関や日本の大学・研究機関を巻き込みながら、学術交流と人材育成を推進できるプラットフォームを作り、日中の学術交流並びに人材のネットワーク化を推進していきたいと考えています。

(高島亜紗)

### ■ プレスリリース

[http://www.jica.go.jp/press/2012/20120911\\_01.html](http://www.jica.go.jp/press/2012/20120911_01.html)

### ■ 中国「人材育成事業」JHP

<http://www.jica.go.jp/cj-hrd/jp/index.html>

### ■ 「陝西省人材育成事業」

(事業事後評価)

[http://www2.jica.go.jp/ja/evaluation/pdf/2010\\_C01-P155\\_4\\_f.pdf](http://www2.jica.go.jp/ja/evaluation/pdf/2010_C01-P155_4_f.pdf)

## 農業分野における土壤汚染防止への取組みを紹介



### ■ 持続的農業技術研究開発計画

<http://www.jica.go.jp/china/office/activities/project/01.html>

10月22日、JICAは、日中農業技術研究開発センターと共に「水質・土壤汚染防止修復技術シンポジウム」を開催、日本における農用地土壤カドニウム防止政策や水稲汚染防止技術、植生を利用した水質浄化等について、政策及び研究面で中国政府との情報共有を行いました。

中国では工場から出される重金属の無害化処理率が低く、歴史的な蓄積の結果、地表水中の重金属濃度が規準を超過している状況が一部の地域で生じています。特に早急な対策が必要とされている湖南省の一部の地域では、鉛が食糧、飲料水を通じて摂取されており、子供の30%は、緊急に鉛除去治療が必要な状況にあること等が判明しています。

JICAが中国農業科学院と実施する「持続的農業技術研究開発計画プロジェクト」は、「環境に優しい農業技術」の確立を目標に、微生物を利用した養豚の排出量ゼロ化に向けた活動や、肥料利用量の削減を通じた水田の水質改善に取り組んできました。

本シンポジウムでは、かつて公害によって土壤汚染が問題となった日本における米のカドミウム含有量を基準内に留めるために行った土壤改善事業等の取り組みの説明や、植物を利用した水質浄等、最新の研究成果の紹介を行いました。北京での開催であったにもかかわらず、湖南省の政府職員も多数参加し、土壤汚染に関する日本の技術への期待の高さがうかがえました。

(林憲二)

## 「感染症学術シンポジウム」を開催

～見えない細菌との闘い、院内感染対策のために～



ICUの手洗い設備について説明する日中友好病院の看護師

### ■ 衛生技術プロジェクト

<http://www.jica.go.jp/china/office/activities/project/29.html>

10月29～30日、JICAは日中友好病院と、「衛生技術プロジェクト」の一環で、「感染症学術シンポジウム」を開催しました。日中友好病院をはじめ、北京大学、協和病院、302病院など、北京市内の主要な医療機関から100名ほどが集結し、院内感染対策をテーマとした最新情報の講演を行いました。今回は特別に台湾大学からも講師を招聘し、中国・台湾・日本の共同による国際シンポジウムとなりました。

日本からは短期専門家として、国立国際医療研究センターの大曲貴夫医師と窪田志穂看護師の2名が、抗菌薬（抗生物質）の適正使用と耐性菌対策をテーマに講演しました。メチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）、多剤耐性緑膿菌（MDRP）等、日本でも院内感染に関する報道で耳にする菌がありますが、これらに対する抗菌薬は、やみくもに使うと耐性菌を生み出し、命の危険につながります。講演では、抗菌薬を適切かつ効果的に処方するための介入や病院内の仕組みについて、日本の実践経験が紹介されました。また耐性菌は、ベッドの手すりやテーブル等、乾燥した表面であっても、数週間～数ヶ月は生存し続けることから、早期発見と早期の拡大予防策の徹底、日頃の整理整頓や手洗い遵守が院内感染対策のカギであることが伝えられました。

院内感染対策は目に見えない細菌との闘い。地道で根気のいる取り組みですが、病院にとっては重大な責務でもあります。中国では近年、衛生部から立て続けに関連法規や条例が通知され、院内感染対策が強化されていますが、現場では実践経験の不足が課題となっています。本プロジェクトを通じて、政策と現場をつなぐ役割を果たして行きます。

(小田遼太郎)

## 第2回「日中建築物の耐震性に関するワークショップ」



### ■ 耐震建築人材育成プロジェクト

<http://www.jica.go.jp/project/c hina/006/index.html>

JICAと中国建築標準設計研究院は、10月17日～18日、西安市において、「耐震建築人材育成プロジェクト」の一環として第2回「日中建築物の耐震性に関するワークショップ」を開催しました。ワークショップには、中国建築科学研究院の建築専門家や各地方設計研究技術者、北京工業大学教授や日本側専門家等、計46名が参加しました。

日中の耐震設計分野の第一人者が、両国における耐震建築や、耐震構造の現状・課題について基調講演を行ったほか、ある建物に対して日中それぞれの耐震診断法によって分析した結果を紹介し、これについて参加者が意見交換を行うことで両国の既存建築物に対する耐震診断・耐震補強技術に対する相互理解を深めました。また、今回は「免震技術」をテーマとして取り上げ、両国の免震設計法及び免震設計事例の紹介や質疑応答を通じて理解を深めました。

来年3月には第3回目のワークショップ開催を予定しています。今回の議論を通じて、「耐震診断・補強」、「免震」の両テーマについて次回ワークショップで検討すべき課題が提案されました。

(王莉)

## 四川大地震後の“こころの復興”経験を

### 世界精神医学会で発表

#### ～関心高まる災害後の“こころのケア”～



プロジェクトによる現地研修のひとコマ  
(リラックス動作法を学ぶ)

### ■ 四川大地震復興支援こころのケア人材育成プロジェクト

<http://www.jica.go.jp/project/c hina/005/index.html>

### ■ ポスター発表内容（英文）

<http://www.jica.go.jp/project/c hina/005/news/20121017.html>

10月17～21日、チェコ共和国プラハで開催された世界精神医学会に「四川大地震復興支援－こころのケア人材育成プロジェクト」の田中英三郎専門家が出席しました。この学会は精神保健分野では最大規模の学術集会で、田中専門家は、ポスターセッションにおいて本プロジェクトの取り組みを発表しました。

ポスターセッションでは、昨年11月の本プロジェクトの中間レビューの結果を踏まえ、①現地研修・訪日研修を通じた中核人材の育成、②精神保健・心理社会ケアのコミュニティでの定着、③住民啓発、に焦点を置きながらプロジェクトの成果を発表しました。特に、既存のコミュニティ活動と結合しながら、カウンセリングサービスや住民心理知識講座等の取り組みを展開し、病院、学校、地域の様々な場面で、「被災住民の生活に密着したこころのケア」に留意している点をアピールしました。聴衆からは多くの質問と関心が寄せられ、実り多いディスカッションにつながりました。

災害後のこころのケアは、一部の国際機関や大学研究機関によるアドボカシーと学術研究、並びに人道支援機関による緊急支援が主体となっており、本プロジェクトのように「中長期的な人材育成」と「ケアの仕組みづくり」を行う取り組みは世界的にも少ないのが現状です。そのため、プロジェクトの知見を積極的に世界に発信し、国際社会に還元することは、特に昨年の東日本大震災の被災以降、我々の使命であるとも考えています。現場の活動サポートとともに、今後もこのような機会を捉えながら成果発信に努めたいと考えています。

(小田遼太郎)

## JICA医療分野帰国研修員同窓会

### 2011年度 第3回国際学術セミナー



10月20日、北京市内において、JICA医療分野帰国研修員同窓会が、今年度3回目となる国際学術セミナーを日中国交正常化40周年記念行事として開催しました。本セミナーには、北京大学第一病院、北京腫瘍病院、石炭総病院、北京老年病院等、胃腸外科の医療従事者約120名が参加しました。



東京大学医学部附属病院胃・食道外科瀬戸泰之教授が、日本胃癌手術治療の歴史と現状について講演し、質疑応答を含む活発的な学術交流が行われました。また翌日には、日中友好病院において、瀬戸教授と愛甲丞医師（東大病院）が、胃と食道結合部癌にかかった82歳の患者を手術しました。三時間半にわたる難易度の高い今回の手術は、遠隔教育システムを通じて数十名の医者が視聴しました。日本人医師による今回の専門講義と手術実演は、中国の胃癌治療分野における視野の広がり、手術技術向上に貢献しました。

(李瑾)



公園に設置されている健康器具

#### ■ 番組ホームページ

<http://www.nhk.or.jp/hot%2DAsia/prg/121025.html#helloasia>

## NHKのテレビ番組で「北京の高齢者の状況」を紹介

10月25日、NHK「ほっと@アジア」に出演し、北京の高齢者の様子について紹介しました。北京の公園には高齢者が集まって、卓球をしたり、ダンスをしたりしながら、自発的に元気に活動しています。公園内には様々な健康器具が設置してあり、ジムに行かなくても筋力トレーニングができるようになっています。中国の60歳以上の人口は、2013年には2億人に達すると見込まれており、高齢化対策が喫緊の課題となっています。このような状況を踏まえ、JICAは、中国国内各地の医療機関にリハビリ職種のボランティア隊員を派遣するなどの協力を進めていることを併せて紹介しました。

(青木信彦)

## CHINA COOL

### 北京の公共レンタル自転車



中国の都市部では、自動車台数の増加による深刻な大気汚染と交通渋滞が発生しており、改善策の1つとして「公共レンタル自転車」の利用が推進されています。公共のレンタル自転車は、日本ではまだ馴染みがありませんが、私が10年前に北欧に留学したときに、フィンランドの街中で初めて見かけ、感心したことを思い出します。中国では、最近急速に普及しており、北京市では地下鉄の駅付近や道路わきなどに100か所以上のレンタル場所が設けられています。あるレンタル場所で借りてから、別のレンタル場所で返却できるため、街中の移動にとっても便利です。利用料は、1時間ごとに1元（約12.5円）ですが、最初の1時間は無料で借りられます。北京市の公共レンタル自転車は写真の通り赤色ですが、旅行をした各地域では、緑やオレンジなど様々な色の公共レンタル自転車を見かけました。10月からは外国人向けのレンタルカードが発行されるようになり、今後、益々普及していくことが予想されます。

(青木信彦)

## JICA「低炭素化のための環境技術研修」に参加して

陝西省環境管理体系諮問センター 趙琳



昨今、中国陝西省では、工業経済の急速な成長に伴い、CO2の排出や污水対策、一次エネルギーの節約等に関する一連の環境問題に直面しています。私が先進的な国際的環境保全理念と環境保全技術を学びたいと思っていた頃、幸運にもJICAの「低炭素化のための環境技術研修」（2012年9月23日～10月25日）に参加する機会を得て、日本で学習することができました。



JICA九州と北九州国際技術協力協会が行った今回の研修は、豊富且つ行き届いた内容で、理論を学ぶだけではなく、数多くの見学や視察も含まれていました。約1ヶ月にわたる見学・学習によって、私は、北九州市がエネルギーや資源の節約を重視し、環境保全に力を入れていることを強く感じました。例えば、1970年代に始まった生活ゴミの効果的な収集や衛生処理、1998年に始まった「環境モデル都市」の建設等が挙げられます。



「北九州エコタウン」を見学した際、私は「ゴミを宝に」とはどういうことなのか、この目で見届けました。廃棄されたペットボトルは、選別・粉碎・洗浄を経てポリエチレンに加工された後、紡糸・織布・染色加工等の工程を経て、最終的には手袋やネクタイ、スーツが生産されます。また廃棄自動車は、50以上にのぼる工程によって自動的に解体・選別され、これを精錬した鋼・鉄・銅・鉛・スズ等のあらゆる金属は、工場のボイラーに運ばれ、新しい自動車の材料になります。車椅子に用いられている発泡スチロールさえもリサイクルされており、自動車の「新たな命への生まれかわり」が実現していました。ここでは、都市で発生する大量の生活ゴミのうち約20%が回収され、70%以上が焼却発電に用いられて都市住民に熱やお湯を供給しています。あらゆる廃棄物に“利用価値”があるのです。

北九州市では、電池に代表される廃・旧資源のリサイクルシステムが完全に整備されています。生産者負担を原則とし、専門業者が回収・資源化を行っています（政府はいずれの過程でも補償を行っていない）。また、政府は消費者が家電等の商品を購入する際に、ゴミ処理費用を購入コストに組み込むように定めた専門の法令を設けています。

生活面においても、日本は省エネ・環境保全をより完璧に実行しています。例えば、TOTOは50%以上もの水を節約できる浴室設備の開発に力を注いでおり、家庭の色々な場面で、どのように節水・節電可能かを考えています。また、環境教育面でも、小・中学校、大学それぞれの授業時間を利用して、人間の活動や環境の変化、資源・エネルギーの利用や社会経済の成長当に関する知識を教えることにより、環境保全や持続可能な開発の意義の重要性を理解させています。

訪日研修で得た収穫はとて大きく、非常に感銘を受けました。研修で学んだ先進的な理念や方法を業務に生かし、陝西省が低炭素社会を実現できるように、微力ながらも貢献していきたいと考えています。

## 赴任者紹介

### 青年海外協力隊

佐藤翔太	日本語教師	湖北省黄冈市 黄冈市外国語学校	2012年10月～
村井郁夫	日本語教師	黒龍江省ハルビン市 ハルビン市朝鮮族第一中学	2012年10月～
大月嘉恵	日本語教師	黒龍江省尚志市 尚志市朝鮮族中学	2012年10月～
櫛田ひかる	日本語教師	内蒙古自治区オールドス市 オールドス市第三中学	2012年10月～
花岡沙代	日本語教師	遼寧省瀋陽市 瀋陽市朝鮮族第二中学	2012年10月～